

# 保健の模擬授業に関する一考察

田邊 政典 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中藪 伸二

キーワード：模擬授業，評価，実験

## 1. 緒言

Aスポーツ系大学（以下A大学）では11種の資格、免許等を取得できるがその中でも中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得する学生が多数いる。

しかし、保健体育科の教師とは中学、高校ともに狭き門であり簡単になれるものではない。特に現役での合格は一握りであり、A大学で免許を取得する殆どの者が卒業後講師という形で初めは教育現場に携わっていく。

そこで今回、教員となる為に本学で実施している保健の模擬授業を中心に、より良い授業とは何なのか、結果・考察を報告し、将来教育現場に出る前段階である保健の模擬授業をより質の高い実践とするために研究を行う。

## 2. 研究方法

A大学で平成26年度に実施された教材開発演習（保健）「飲酒と健康」に関する模擬授業の生徒役30名（大学生）を対象者とした。模擬授業後の生徒役が無記名自己記入式で記入した模擬授業評価票（N式）、模擬授業評価票（K式）、感想文を分析した。

## 3. 結果と考察

### 1) 模擬授業評価票と感想文から

模擬授業評価票から、生徒への指示・確認、学習活動、わかり興味をひく楽しさが評価として高かったことが読み取れる。逆に、文章教材の活用、発問の工夫、子どもへの説明が評価として低かった。また、感想文から、実験についての印象が強くなり、よかったという意見が多いことが分かった。

このことから、実験を行うことにより、生徒役、生徒達は授業に興味を示し惹きつけられやすいと考えられる。

文章教材の活用、発問の工夫、子どもへの説明の評価が低かったことから、思考・判断の評価も低くなったことが推察された。発問の工夫、子どもへの説明について、感想文で机間指導が少ないという意見が比較的多かったが、積極的に机間指導を行いながら発問・説明を含めた声かけを行うべきであると考えられる。

## 4. 結論

今回の保健の模擬授業に関する考察から、実験を行うことが生徒役にとってかなり効果的であることが分かった。実験を行うことで生徒達は授業に興味を示しやすくなると示唆される。

しかし、改善点として、実験を行うタイミングについての意見があったため、どこのタイミングで実験を取り入れるのが一番効果的なのかを検討する必要性もある。

教育現場に出る前にA大学で行う模擬授業で生徒が何を考えているのか、何に興味を示すのかを考察することができたことは幸いである。この研究は一考察に過ぎないので、これからは更に領域を広げて研究していきたい。

## 参考文献

高井聰美（2010）保健教育（保健学習）における模擬授業の効果。関西女子短期大学紀。20：23－28。

植田誠治（1998）小学校保健授業の教授－学習過程評価票の開発。学校保健研究。40（1）：75－81。